



港北ニュータウン ふるさと伝承記録集

– 2012年版 –

はじめに

港北ニュータウンの開発が始まって47年が経ちます。港北ニュータウンの位置する都筑区は、平成22年4月に人口20万人を超え、港北ニュータウン開発の成果が着実に実っています。

こうした街の発展と変化とともに、開発前から行われていた伝承芸能が、都筑区の中で受け継がれてきました。

(財) 港北ニュータウン生活対策協会(平成17年3月解散)は、平成11年に祭事や民俗芸能などを9巻のビデオを作成し、その紹介として「港北ニュータウン ふるさと伝承記録集」の冊子を発行いたしました。

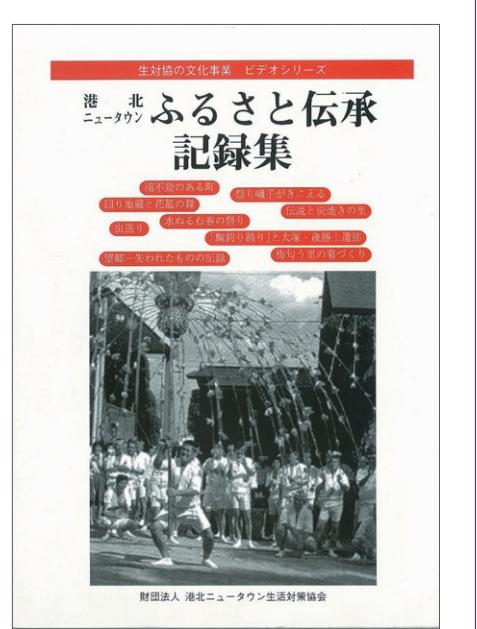
そこで今回は、冊子作成から 13 年が経った現在、それらの伝承記録がどのように受け継がれているかを取材・調査し、この記録集をまとめることいたしました。また、ビデオ映像については、デジタル動画にいたしました。

地域社会の歴史と伝承文化を将来に伝えるための一端として、今回再編した記録集とデジタル動画が広く利用されるように願っております。

2012年3月

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』

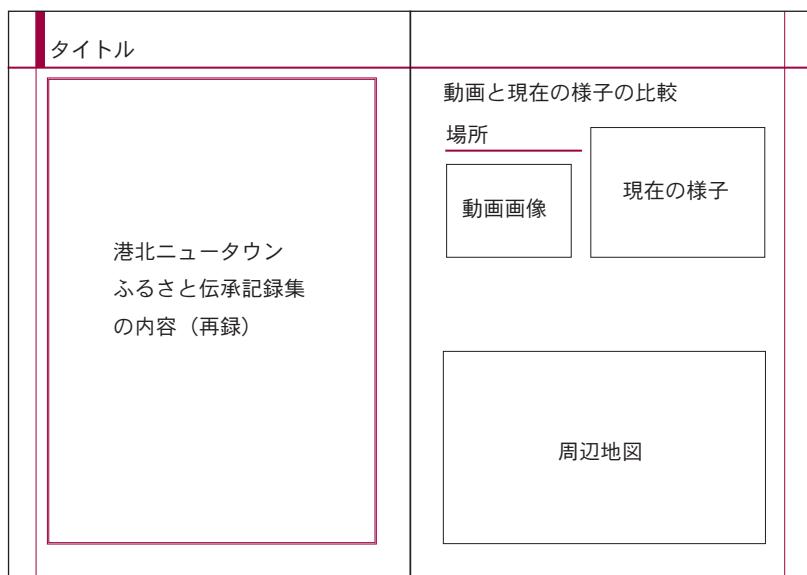
今回の2012年版では、前冊子の内容も再録しておりますので併せてご覧いただければ幸いです。



目次

1. 滝不動のある町 －老馬鍛冶山不動尊の今むかし	3
2. 回り地蔵と花籠の舞 －池辺町に伝わる風習と伝統芸能	5
3. 祭り囃子がきこえる －新しい街港北ニュータウンと茅ヶ崎町のたたずまい	7
4. 水ぬるむ春の祭り －八幡様と水神様の例祭	9
5. 虫送り －夏の早渕川を彩る祭り	11
6. 「鯛釣り踊り」と大塚・歳勝土遺跡 －はるかな昔の面影が漂う	13
7. 梅匂う里の菊づくり －佐江戸町・東方町・川和町の伝統行事と菊花愛好会	15
8. 伝説と炭焼きの里 －荏田かいわい	17
9. 望郷 －失われたものの記録	19
10. 参考	21
茅ヶ崎城址について	21
参考となる本の紹介	22
都筑区マップ	23

本書の構成



1. 滝不動のある町 －老馬鍛冶山不動尊の今むかし

撮影期間

平成 3 年 8 月～平成 4 年 3 月

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より

撮影場所

港北区中川町（現・都筑区中川 3 丁目）、老馬鍛冶山不動尊の一帯

見どころ

平成 3 年前後の中川町、改築前の老馬鍛冶山不動尊とその周辺、現在造成が進んでいる横浜市と川崎市の市境である旧大山街道をタイムスリップしたように見ることができる。

また、「老馬」「鍛冶山」の地名の由来や、不動像を運んできた僧の話、念佛講など、昔の面影をしのぶことができる。



念佛講の一場面

ストーリー

場面は現在の国道 246 号線から始まる。旧称大山街道の由来である大山阿夫利神社は降雨の靈験があるとされ、江戸時代以来多くの農民が参詣した。ニュータウンの中央部を流れる早渕川にかかる鍛冶橋周辺は、今も旧道の面影を残している。その道沿いにある老馬鍛冶山不動尊の堂守をしている大久保太市さんは、不動尊の由来を語る。

江戸時代末期、諦念法師が大棚村を訪れ、大久保家に一夜の宿を求めたところ、そこの婿養子となって住み着いたこと。背負ってきた不動明王を牛久保の長徳寺に預けたが行方不明になり、再び新潟まで不動明王を求めに行き、家の近くに堂宇を建てたこと。堂宇の下には、諦念法師作とされる石の不動尊と滝がある。この石の不動尊にはさまざまな靈験があるとされ、各地からいろいろな願い事をもって訪れる人が絶えなかったという。中川町では日照りがつづくと、石の不動尊に滝の水をかけて祈った。すると必ず雨が降ったという。

さらに、地名について、「鍛冶山」は、大久保太市さんの先祖が、刀鍛冶から野鍛冶となり、この辺で鍛冶屋をやっていたことからきているようだ、と話す。「老馬」は牢屋があったから「ろうば（牢場）」になったという説もあるが、昔、この一帯は広大な放牧場だったといわれ、馬に関係する地名ではないかという。

場面は昔の大山街道をほうふつとさせる旧道に移る。横浜市と川崎市の市境で、現在造成中のために今ではもうこの風景は見られない。鬱蒼とした竹林、雑木林、流れる湧き水。「血流れ坂」といわれた坂の話は、江戸時代の刑場を思わせるが、今はまったく跡形もない。竹林の中に馬頭観音の石塔が 3 基、ひっそりとある。

再び老馬鍛冶山不動尊。毎月 28 日に行われる念佛講が映される。古い木箱には文久 2 年の年号、鉢には宝暦 5 年の銘がある。その鉢を叩き、大きな数珠を回しながら集まった地域の人々が念佛を唱える。

棟札には嘉永元年の年号が記され、境内には安政 3 年建立の石版供養塔もあり、この不動尊が江戸時代から人々の拠り所であったことがうかがえる。

現在、この老馬鍛冶山不動尊は改築され、庫裡も新築、境内も整備された。周辺も宅地化されて景色は一変しているが、今も桜、けやきの大木が繁り、昔の面影をわずかに残している。

■動画で紹介された場所の現在の様子（左側が動画作成時、右側が現在の様子です）

旧大山街道



撮影日：2011.08.17

かつての大山街道は、大山詣での道としてにぎわいました。

老馬鍛冶山不動尊



撮影日：2011.08.17

本堂には、大日大聖不動明王ほか二尊が祀られています。

石版供養塔



撮影日：2011.08.17

老馬鍛冶山不動尊の境内に建てられています。

靈泉の滝



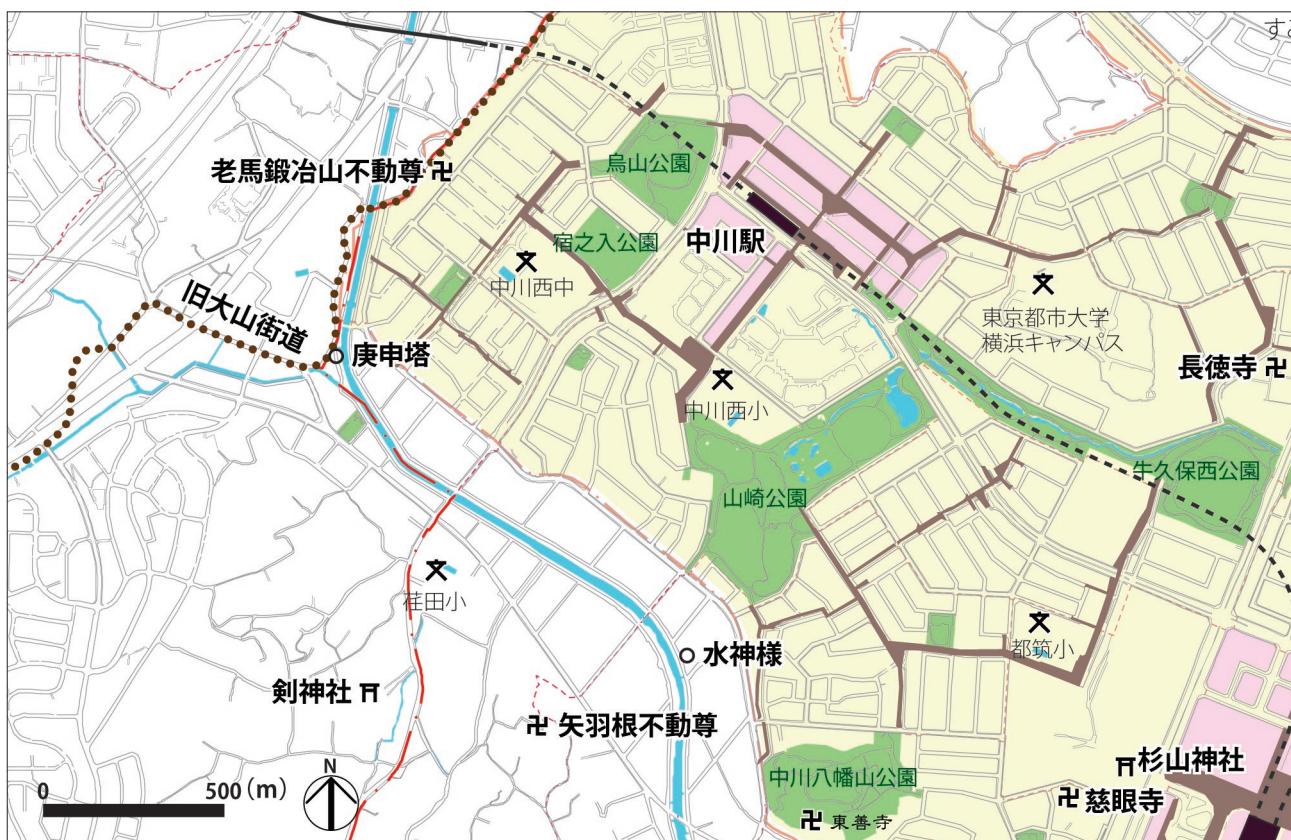
撮影日：2011.08.17

不動尊のかけ下の滝が、靈泉の滝です。

老馬鍛冶山不動尊念仏講について

現在の念仏講の講員は3人ほどで、老馬鍛冶山不動尊の管理も行っているそうです。平成22年10月には、横浜市から「平成22年度横浜市無形民俗文化財保存団体」として奨励証が授与されています。

■周辺地図



2. 回り地蔵と花籠の舞　－池辺町に伝わる風習と伝統芸能

撮影期間

平成 3 年 8 月～平成 4 年 3 月

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より

撮影場所

緑区（現・都筑区）池辺町

見どころ

平成 3 年から 4 年にかけての池辺町のたたずまいとニュータウン建設の一環である幹線道路、横浜上麻生線の工事状況がわかる。また、杉山神社の例祭で行われてきた花籠踊りは、その後中止になり、この撮影が最後の記録になった。

各谷戸の念仏講や、今では珍しい風習になった「回り地蔵」の話など、昔から続けられてきた伝統行事が人々の暮らしにとけ込んでいる様子がわかる。



杉山神社の例祭で行われた花籠の舞

ストーリー

太い竹の先から枝垂れ桜のように赤や紫の花が垂れ下がる花籠。かけ声とともに若者が花籠を回す華やかな祭りの一こま。ここは緑区（現都筑区）池辺町。中央を中原街道が通り、沿道には六地蔵や馬頭観音、いぼとり地蔵が点々と安置され、古い歴史の面影が残っている。

港北ニュータウンの開発で、町のほとんどは農業専用地区と市街化調整区域になったが、幹線道路、横浜上麻生線のバイパス工事が進行中である。佐野重雄さんは地権者の一人としてニュータウン建設に尽力されたが、工事中の町を案内し、開発への思いを語る。道路ができることで、地域が分かれ、人々の交流もとぎれるのではないかと。

八所坂のそばに「セイの神様」という道祖神がまつられている。その前に丸い石があり、「セイの神の石」といわれ、毎年 1 月 14 日のどんど焼きで焼かれる。どんど焼きは各谷戸ごとに地域の行事として行われている。

毎月 12 日には座間さんの家でお題目講中が行われ、地域の人々が集まり熱心に念仏を唱える。

1 日と 15 日の早朝には八所権現社で世話人が太鼓をたたき、町の人々がお参りに訪れる。八所権現社の隣には八所谷戸クラブがあり、毎月一日に地域の女性たちが集まり、歌を歌ったり、おしゃべりをしたり、昼食を食べる楽しい集まりをもうけている。

農業専用地区の中ほどに、江戸時代から続いてきた富士信仰の名残り星谷富士がある。小さな人工の富士山で頂上からの眺めがすばらしい。

このように歴史が色濃く残っている池辺町の各谷戸では、それぞれの伝統行事が行われているが、子育て地蔵を十日おきに回して供養する「回り地蔵」は、もうここにしか残っていないようだ。お地蔵さんが回ってくると、道具をだし、花を供え、線香をたて、子供たちの健やかな成長を願って丁寧に供養する。3 日、13 日、23 日の三の日に回されるお地蔵さんはやさしいお顔で、子を思う親の気持ちが伝わってあたたかい。

9 月 20 日の池辺町杉山神社の例祭の日がやってきた。花籠づくり、踊りの練習と準備を重ね、いよいよ本番。鈴木豊町内会長は、昔は花籠踊りや御輿が村中を練り歩いた。特に御輿は激しい動きで有名だったと話す。今でも境内を練り歩く御輿は勇壮だ。そしてひときわ目をひいた花籠の舞に拍手が起こった。

■動画で紹介された場所の現在の様子（左側が動画作成時、右側が現在の様子です）

八所神社



撮影日：2011.09.23

桜の大木に囲まれた神社です。御神体を見ると不幸を招くとの伝説があり、いまだに見た人はいないそうです。

杉山神社



撮影日：2011.09.23

境内には、八坂神社、鹿島社、愛宕祠が祀られています。9月の例大祭は、神輿も出て盛大に行われています。

池辺町杉山神社例大祭について

池辺町杉山神社神輿保存会が中心となって、町内会が参加して花籠踊りや神輿が披露されます。花籠踊りは3人で花籠を廻します。神輿は杉山神社の境内の中で担がれます。

(写真撮影日：2011年9月23日)

星谷富士



撮影日：2011.09.23

頂上には、星谷浅間神社が祀られています。晴れた日には、頂上からペイブリッジやランドマークタワーなどが展望できます。

花籠踊り



撮影日：2011.09.23

9月の例大祭では、花籠踊りと御神輿が披露されます。花籠踊りと御神輿は3回ずつ披露されます。



■周辺地図



3. 祭り囃子がきこえる　－新しい街港北ニュータウンと茅ヶ崎町のたたずまい

撮影期間

平成4年6月～8月

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より

撮影場所

港北区（現・都筑区）茅ヶ崎町、正覚寺、観音堂、茅ヶ崎城址、寿福寺

見どころ

平成4年前後の茅ヶ崎町。

特に港北ニュータウンの中心部である市営地下鉄センター南駅や幹線道路の新横浜・元石川線に沿った造成の様子を映しながら、新しい街づくりへの金子保さんの思いが語られる。

また、都市と農業の調和した街づくりの一つである朝市が紹介される一方、古い歴史を残す茅ヶ崎城が紹介されている。



観音堂で奉納された茅ヶ崎祭り囃子

ストーリー

祭り囃子の音が聞こえてくる。茅ヶ崎町にある観音堂。8月18日は観音様の命日にあたり、前日の夜は法要の念仏が唱えられ、獅子舞が奉納されるのである。参加者の中に（財）港北ニュータウン生活対策協会の副理事長、金子保さんの姿も見られる。金子さんは、ニュータウン開発を指導してきた一人。新しい街づくりに人一倍情熱をかけてきた。

金子さんはニュータウン建設への思いを語る。30万都市を目指した2,530ヘクタールの開発。開発前の少年時代は、郵便局もなく、雨の日も雪の日も来てくれる郵便屋さんが何よりのたよりだったこと。この一帯は神奈川県の典型的な農村地帯で、田圃の基盤整備、農道の整備、河川の改修にあたり、農業を守るために努力してきたが、昭和32年頃からはじまった高度経済成長による大都市開発は乱開発を招きつつあった。このままでは自然も農業も壊されてしまうと苦悩していたが、狭い道路を幼稚園児もダンプも通っている状態に、計画的な開発をすることで、道路整備や河川の改修をしようと、ニュータウン建設に踏み切った経緯を話す。

昭和58年、はじめて集合住宅ができ、61年からは研究施設も誘致されるようになった。一方、農業もしっかり残されている。農業専用地区で生産された野菜は、毎週日曜日に開かれている朝市で販売され、平成元年からのスタート以来、おいしいと評判。

約400年の歴史をもつ正覚寺は、戦時中は学童疎開を受け入れた。その碑「生命の泉ここにありき」には、当時の様子と感謝の気持ちが述べられている。菖蒲、あじさいの咲く頃の野点の風景も心がなごむ。

寿福寺と茅ヶ崎城址。深川清治さんが案内する茅ヶ崎城址は本丸や二の丸の跡もあり、中世の武家社会の様子が浮かんでくる。やがて整備され公園になるが、こんもりした山、周辺の古道を思わせるたたずまいには、なつかしいものがある。

再び茅ヶ崎まつり囃子。観音堂の鐘つき僧の昔話を聞きながら、獅子舞の中のおかめの化粧などユニークなしぐさに思わず笑いがこぼれてしまう。

新しい街に昔の伝統芸能が生きていることを実感する。

■動画で紹介された場所の現在の様子（左側が動画作成時、右側が現在の様子です）

茅ヶ崎観音堂



寿福寺



8月17日・18日には、宵宮と本祭が執り行われています。

境内には、横浜市で最も古いとされる山桜（江戸彼岸）と白桜の木があります。

正覚寺



アジサイや菖蒲が植えられて、境内は美しい景観となっています。

茅ヶ崎城址公園



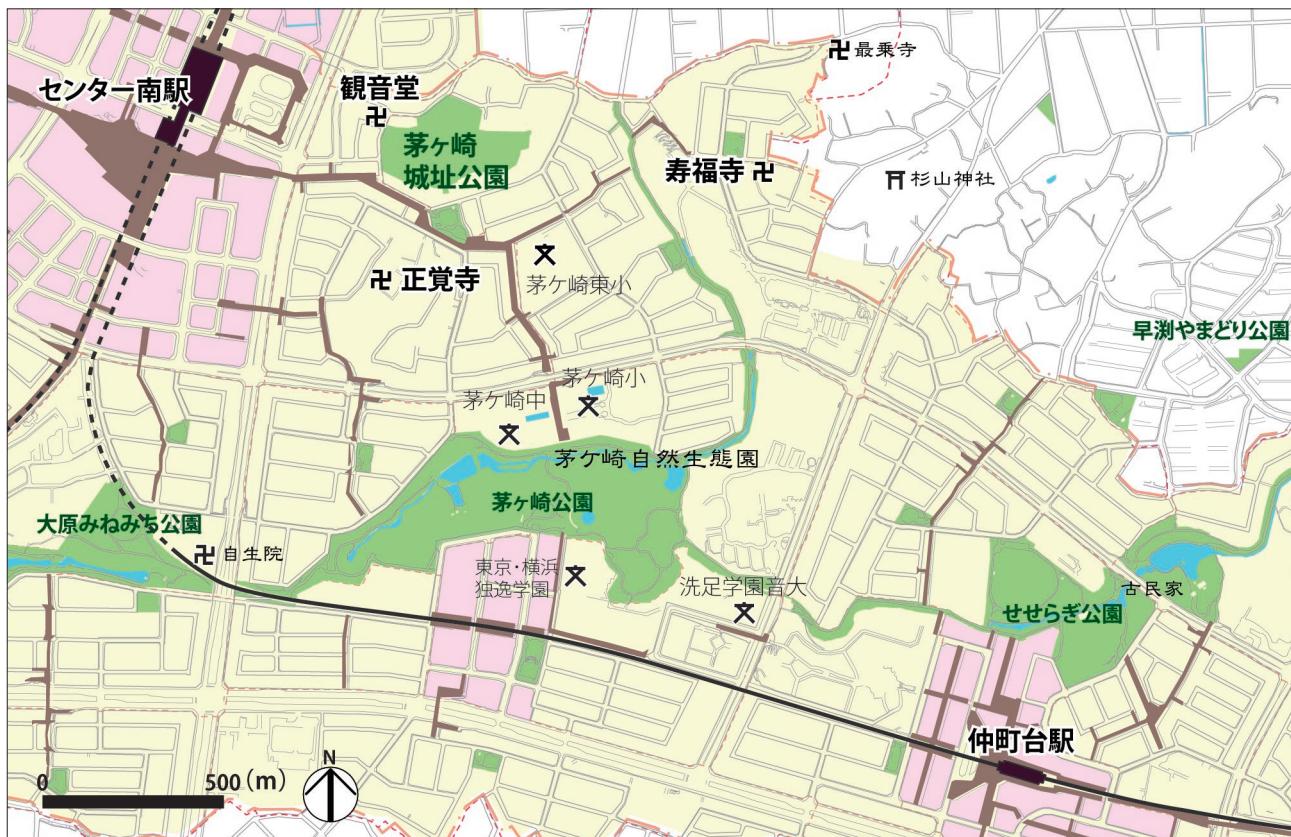
現在では、茅ヶ崎城址公園として整備されています。もともとの計画では、この一帯は一般住宅地とされていました。

茅ヶ崎城址について

茅ヶ崎城址は、中世（14～15世紀）の城郭跡で、中世城郭の「空堀」、「郭」、「土塁」の構造が良く保存されており、市内では唯一良好な姿で残るものとして学術評価も高いため、港北ニュータウン計画（1974年）の中で保存することが決まっていました。現在では、歴史公園として整備されています。

⇒茅ヶ崎城の歴史については、P.21を参照してください。

■周辺地図



4. 水ぬるむ春の祭り 一八幡様と水神様の例祭

撮影期間

平成4年12月～平成5年3月

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より

撮影場所

港北区（現・都筑区）中川町、町内会館、水神様

見どころ

中川町では八幡様の春の例祭を水神様の祭りとともに、毎年行っていた。

春のはじめ、本格的な水田耕作が始まる前の3月26日、この祭りをしないと村が荒れると言い伝えられ続けられてきた。神事が行われた後の神主による舞がユニークである。面と衣装を取り替え、さまざまな装束で舞われる。

また水神様への雨ごいの祈りとして藁の蛇を作つて早渕川に流す話は、貴重である。



神主による舞の一つ

ストーリー

中川町の南西部を流れる早渕川。八幡様と水神様のお祭りは、中川町に伝わる行事で、神樂が奉納され、投げ餅が行われる。八幡様は明治44年に杉山神社に合祀され社はないが、この祭りをしないと村が荒れると伝えられてきた。

平成5年の3月、市営地下鉄3号線が開通した。あざみ野駅から新横浜までの区間で、待ちに待った地下鉄の開通である。電車から開発中のニュータウンが一望できる。センター北駅近くの吾妻山には、中川町・大棚町の杉山神社が仮移転されていた。中川町内会長の大久保正治さんが、そのいきさつの説明をされる。この神社には、4社か5社が合祀されていること。仮社殿を造つて毎年お祭りをしていること。郷社という社格をいただいていること。新しい社殿をセンター北駅の西側に建設予定のことなど。

新しく建設される社殿の近くに慈眼寺があるが、早渕川にちなんだ話が残っている。

早渕川は周辺の田を潤していたが、矢崎の上流に土の堰を造っていた。大雨が降ると堰は決壊し、毎年のように村人が造り直していた。その苦労を見かねた慈眼寺の住職が木材の堰を造るようにと、寺の山林の一部を譲ってくれた。堰は大正12年の関東大震災で壊れたが、翌13年にコンクリート製に改修された。この堰は大堰といわれ、大堰、小堰の二つあった。昭和47年の護岸工事によって堰は無くなり現在のような形になった。堰の近くに水神様の祠が建っている。雨ごいも水神様への願いの一つで、日照りが続くと、六尺ほどの藁蛇を作り、水神様に供え、水をかけて早渕川に流したという。

3月26日の水神様の祭りの日。神主さんを先頭に水神様に向かう人々。お供えをし、祝詞をあげる。その後町内会館に戻り、八幡様のお祭りに入る。同じようにお供えをして祝詞をあげ、いよいよお囃子と神樂の奉納である。さまざまな神様、おかめ、ひょっこ、えびす様と、何度も衣装を替えての踊りは珍しく、子供たちに人気がある。

舞が終わると、盛大な投げ餅。狭い会館は歓声に包まれる。お囃子の太鼓をたたいたのは、大久保竹次さん。やがて、6月ともなると、早渕川沿いの田圃で田植えをしている大久保竹次さんがいた。昔から受け継がれてきた農業と祭り。豊年満作、家内安全を祈るさまざまな神事や行事に、暮らしの原点が見えるようだ。

■動画で紹介された場所の現在の様子（左側が動画作成時、右側が現在の様子です）

吾妻山公園



杉山神社



撮影日：2011.08.25

旧杉山神社の社殿があった場所で、現在は公園として整備されています。

慈眼寺



慈眼寺



撮影日：2011.08.17

慈眼寺は都筑樹十二薬師第九番札所となっています。

水神様



水神様



撮影日：2011.08.17

早渕川の神様を祀る小さなお堂が中崎橋の近くに建っています。

大棚堰の碑



棚堰大



撮影日：2011.08.17

現在でも、水神様の社の下に「大棚堰」の碑が残されています。

八幡様と水神様の例祭について

動画で紹介されている八幡様のお祭りは現在では行われていません。動画が撮影された平成5年頃までは毎年行われていたそうですが、その後お祭りは行われなくなつたそうです。

水神様は、現在農協が管理していて、年に2回の清掃と、2年に1回神主を呼んで祭事を執り行っているそうです。

(大久保信正さんへのヒアリングより：2011年7月12日)

■周辺地図



5. 虫送り　－夏の早渕川を彩る祭り

撮影期間

平成5年6月～平成6年3月

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より

撮影場所

港北区（現・都筑区）南山田町、山田神社

見どころ

かつて全国的に盛んに行われていた虫送り。稲の害虫を送り出すこの行事は、伝統行事として数々残っている。

ここ南山田町では、戦後復活し、現在は、町内会、子供会、消防団など地域の組織によって毎年行われ、子供たちを対象にした後継者育成にも力を入れている。いきいきとした子供の様子が印象的である。



虫送りの一場面。たいまつのがつづく

ストーリー

赤々と燃えるたいまつをかざして行列する大人と子供。夏の早渕川を彩る伝統行事「虫送り」。

早渕川はニュータウンの中央を流れているが、一時は都市開発によって汚染が進み、悪臭さえはなっていた。近年は下水道の整備も進み、水が澄み鳥や魚も見られるようになった。

早渕川について、金子保さんの思い出が語られる。川の両側は水田で、数本のせせらぎが流れ込んでいたこと。戦前は清流でホタルや魚がいたし、子供たちは泳いでいたこと。

平成4年の9月、鮎が登ってきたという朗報が飛び込んできた。中川町の川沿いに住む大久保久夫さんが見つけたのだ。大久保さんは小魚が水面にはねるのを見て、どんな魚がいるのかと投網を打ったところ鮎が入っていた。このことは、「早渕川に鮎がのぼってきた」と当時かなり話題になった。大久保さんは、(財)港北ニュータウン生活対策協会の監事を務められた。

南山田町でただ一軒残った農家、栗原信雄さん宅では田植えが行われていた。栗原さんは稲につり害虫としてはニカメイチュウなどがいたと話す。

虫送りについて、郷土史研究家の川口謙二さんの話。虫送りは昔から続いてきた伝統的な行事だが、ここでの虫送りは古い形式で、村内でたいまつを持って練り歩き、村はずれまで来てパッと火を消し虫を送る。戦時中は灯をともしてはならないと禁止され、中断していたが、戦後、昔のままに復活した。

町内会館では準備が進められていた。竹を切り、100本のたいまつを用意する。

いよいよ祭りの当日である。山田神社に集まり、獅子舞が奉納された後、獅子、お囃子を先頭に、子供たち、町内の人々の行列がスタートする。途中で一休みして暗くなるのを待ってから、たいまつに火がつけられ、子供たちに手渡される。赤々と燃えるたいまつをかざしながら早渕川に向かって続く行列は遠くからもより見え美しい。到着するとたいまつは一力所にまとめられ、大きな火となって燃え盛る。その回りで、この日のために練習してきた子供たちが、お面をかぶり踊り狂う。夏の夜の幻想的な、そして大人も子供も心を一つにした伝統行事。時代が変わろうと、旧住民、新住民ともに楽しめるように工夫がされていると、栗原毅町内会長の話だった。

やがて秋の収穫をむかえ、栗原信男さん方では、稻刈りが始まっていた。

■動画で紹介された場所の現在の様子（左側が動画作成時、右側が現在の様子です）

虫送り①



南山田町内会館から山田神社に移動し、お囃子と共に社殿の周りを3回まわり、境内の外へと向かいます。

虫送り②



山田神社を出発した行列は、お囃子を先頭にして町内をめぐり、休憩所まで向かいます。

虫送り③



休憩所で松明に火が灯り、なつみかん公園を目指して町内をめぐります。

虫送り④



なつみかん公園で松明が一ヵ所に集められ、その周りではお囃子や踊りが披露されます。最後に火を消して虫送りは終わります。

虫送りについて

虫送りは戦後中断していましたが昭和51年に復活し、現在でも毎年土用入りの後の土曜日に行なわれています。また、平成17年には横浜市指定無形民俗文化財に指定されました。

行事は、南山田虫送り行事保存会が中心となって、南山田町内会や子供会、消防団、小学校など地域の様々な団体が参加して伝統行事を守っています。

(写真撮影日：2011年7月23日)

■周辺地図



6. 「鯛釣り踊り」と大塚・歳勝土遺跡 －はるかな昔の面影が漂う

撮影期間

平成 6 年 10 月～平成 7 年 2 月

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より

撮影場所

港北区（現・都筑区）大棚町

見どころ

平成 6 年 11 月、横浜市に都筑区が誕生したが、この地域は発掘調査によって縄文・弥生時代から人々の暮らしが営まれていたことがわかった。その名残のような「鯛釣り踊り」という伝承芸能が受け継がれている。また地神講やどんど焼きも行われている。

ニュータウン地区最大の遺跡「大塚・歳勝土遺跡」が出土した大棚町のたたずまいに昔の面影を追う。



どんど焼きの一場面

ストーリー

平成 6 年 11 月、横浜市に都筑区が誕生した。港北ニュータウンの開発区域を中心に、港北区と緑区の一部を分離独立して誕生したのである。

早渕川に沿って細長く広がる大棚町は、発掘調査のなかでも最大の遺跡、「大塚・歳勝土遺跡」が出土したところである。

その遺跡の真下にあたる歳勝土と杉の森地区に「鯛釣り踊り」の伝承芸能が伝わっている。海の近くでもないのに、なぜ鯛釣り踊りが、と思うが、この近くには南掘貝塚や茅ヶ崎貝塚などもあり、昔、海であった名残とも思われる。

踊りは大棚町内会館で披露された。青い海原を表すシートが敷かれ、先ず、獅子舞が大漁と無事を祈って激しく舞われる。獅子が消えると、にこにこ顔のえびす様が二人のお供を連れて現れる。浜に着くとえびす様はお供に餌を捕って参れと命じる。餌を探すうち、一人の供の目にゴミが入る。ゴミを取るのに火吹き竹で尻に空気を送り込むあたり、笑いを誘う。やがて、餌を付けて釣竿を垂れると、大きな鯛がかかる。そして意気揚々と退場するという素朴な内容である。

出演された方々は、後世に伝えていきたいが、後継者不足に悩んでいると、口々に話す。

1月14日のどんど焼きのために、吉野敏雄さん宅では準備が行われていた。そして当日、早渕川に近い畠で、高々と竹や枯れ枝を組み立て、町の人々が持ち寄ったお札やだるまなどを中に入れ、夕闇の迫る頃、火がつけられる。ひとしきり激しく燃えた火が消えると、後に真っ赤に焼けた炭が残る。その残り火で三つ又の枝にさしたお餅を焼いて食べる。このお餅を食べると一年間風邪をひかないといわれは、どこも共通である。独特なのは、お餅をさした檜の枝は、玄関脇に立てておくとどろぼうよけになるとか、柿の木を叩くと柿がよりなるという言い伝えだ。

3月の春のお彼岸の前後の社日に、地神講が行われた。歳勝土と杉の森地区の人々が町内会館の一室に集まり、土神様の掛け軸をかけ、お供え物をあげ、おまいりをしてから、和やかに歓談するのである。この日一日は、畠の仕事をしてはいけないと伝えられてきたが、忙しい農作業の息抜きだろうか。

昔の面影が色濃く残っている大棚町である。

■動画で紹介された場所の現在の様子（左側が動画作成時、右側が現在の様子です）

鯛釣り踊り・どんど焼き



鯛釣り踊りは現在ではあまり披露されていないようです。どんど焼きも、大棚では地域の行事として行うことはなくなりました。

大塚・歳勝土遺跡



環濠集落である大塚遺跡と、方形周溝墓群である歳勝土遺跡からなっており、環濠集落の一部は公園として復元整備されています。

鯛釣り踊りとどんど焼きについて

鯛釣り踊りの後継者を育てるために定期的に練習を行っており、現在では、中高生を中心として笛や太鼓を教えているそうです。おめでたい時に披露するもので、恒例行事としては行われていないそうです。

どんど焼きは大棚の4つの地区それぞれで行っていましたが、最後までやっていた歳勝土地区と杉の森地区も2,3年前にやめてしまったそうです。現在では、吉野さんのお宅だけでやっているそうです。

(吉野孝さんへのヒアリングより：2011年9月6日)

古梅地蔵堂（※動画にはありません）



撮影日：2012.01.28

古梅地蔵堂は、江戸時代から西年に開帳する二十四地蔵のうちの第二十四番札所として信仰を集めめたお堂です。現在のお堂は、1992年12月に完成しました。

地蔵堂では、寒念仏、春の彼岸念仏、花祭り、盆念仏、秋の彼岸念仏、お十夜といった年中行事が行われています。請地古梅講中では、3人の堂番が日常的な管理や行事のお世話をしています。



(竣工当時の写真)

■周辺地図



7. 梅匂う里の菊づくり　－佐江戸町・東方町・川和町の伝統行事と菊花愛好会

撮影期間

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より

平成7年1月～平成7年12月

撮影場所

都筑区佐江戸町、東方町、川和町、天満宮、川和富士、
東漸寺、無量寺、妙蓮寺

見どころ

もともと緑区ではじまった菊花展は、都筑区誕生にともない都筑区で開かれるようになった。毎年11月、多くの市民の目を楽しませてくれる。会員は広範にわたっているが、佐江戸町が中心になっていることから、その周辺地域の伝統行事や伝説をからめて、菊づくりを紹介する。

天満宮の梅祭り、無量寺の花祭り、妙蓮寺のお会式の様子と、花にちなんだ話題は花を愛する人々の心が伝わってくる。



菊花展に出品された作品

ストーリー

2月の末、東方町の天満宮では梅祭りが行われた。たまたまこの日は雪まじりの雨が降り、町内会館での催しになったが、句会あり、野点ありの和やかな一日だった。

春はまた、菊花愛好会のスタートの時である。会長の菅沼喜代造さん宅では、さし芽や肥料の講習会が開かれていた。菅沼さんは（財）港北ニュータウン生活対策協会の副理事長として街づくりに尽力された。菅沼さんの菊づくりへの思いが語られる。菊づくりには、趣味を持つ楽しみ、人に喜んでもらう楽しみ、健康づくりの楽しみがあるという。

菊づくりの一年を撮影させていただく並木誠久さん宅では、既にさし芽が終わり、菊の苗はいきいきと育っていた。

春は一年でもっとも華やかな季節だ。かつてニュータウン地区には江戸時代盛んだった富士信仰により人工の富士山があちこちに造られていたが、今は数えるほどになった。川和富士はシンボルとして公園に整備され残されている。撮影したこの日はちょうど桜が咲き誇り、花見客で賑わっていた。

佐江戸町にある無量寺では、4月8日、花祭りが行われた。お釈迦様を花で飾り、甘茶をかけて祝う。地域の人々が次々に訪れ、和やかな歓談が繰り広げられる。

一方、東漸寺には、「いたずらむじな」の伝説が残っている。毎晩トントンと戸を叩くむじなに困った和尚さんが、ご本尊に化けたむじなを追い出す話だ。

6月になると、天満宮では梅の収穫が行われた。収穫した梅は格安で町の人々に配られる。

9月末の日曜日は神社のお祭り。佐江戸町の杉山神社、東方町の天満宮では御輿が繰り出し、子供たちや若者が元気よく担ぎ出す。祭りを盛り上げるお囃子は町のお年寄りが担当、ここには地域の交流がある。

10月に入ると、菊花展の準備。そして11月初旬、いよいよ菊花展が開かれる。センター南駅構内と区役所に並べられた見事な菊の花。懸崖で受賞した並木さんは「難しいからこそ、また挑戦しようという気持ちになる」と菊づくりの魅力を話す。菅沼さんは、この街を緑と花の街にしたいと抱負を語る。

11月末、川和町の妙蓮寺で御会式が行われた。花で飾られた万灯が会場を盛り上げる。

一年を通して、さまざまな祭りや花づくりが人々の暮らしを彩っている。

■動画で紹介された場所の現在の様子（左側が動画作成時、右側が現在の様子です）

東方町天満宮



撮影日：2011.09.17

学問の神様である菅原道真公が祀られています。境内には紅梅・白梅の木が約 250 本植えられ、2 月には梅まつりがあります。

菊花展



撮影日：2011.11.03

毎年 11 月にセンター南駅で菊花展が開かれています。

無量寺



撮影日：2011.09.23

境内は緑豊かな小高い丘に建っています。隣には、佐江戸杉山神社があります。

妙蓮寺



撮影日：2011.09.23

区内唯一の日蓮宗寺院です。境内には古木が多く、春の桜や秋のイチョウの紅葉がとてもきれいでいます。

都筑菊花展について

横浜北部菊花会の主催により、毎年 11 月初めにセンター南駅構内にて「都筑菊花展」が開催されています。2011 年で 25 回目を数え、都筑区民まつりに合わせて展示されています。動画の撮影時では、駅構内 2 階のスキップ広場に出る通路に展示されていましたが、現在では、駅構内 1 階のエスカレータ下に展示されています。
(写真撮影日：2011 年 11 月 3 日)



■周辺地図



8. 伝説と炭焼きの里 – 荘田かいわい

撮影期間

平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月

『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より

撮影場所

港北区（現・都筑区）莊田東、矢羽根不動尊、剣神社

見どころ

現在の都筑区莊田東、かつては緑区莊田町だったが、旧大山街道の莊田宿があり、江戸時代はたいへん賑わっていた。ニュータウン建設にともなう発掘調査によって、矢崎山横穴墓群が見つかり、太古から人々が住んでいたことがわかった。

矢羽根不動尊で行われている念仏講、炭屋の屋号を持つ旧家、剣神社の伝説を織りませ、昔の莊田かいわいの暮らしをたどりながら、現代の子供たちとの接点を莊田東第一小学校で行われているお楽しみ会の藁草履づくりや炭焼き体験を通して探ってみる。



炭焼きに取り組む子供たち

ストーリー

都筑区の北西、早渕川に沿った莊田東地区からは、発掘調査によって矢崎山横穴墓群が出土した。発掘当時の写真を見ると、矢崎山から南の方に向かって谷が続いているが、現在はビルと住宅地で、すっかり景色が変わっている。

矢崎山の下で暮らしている内野セイさんと、近くに住む井上千代子さんに、昔の話をしてもらった。渋沢谷戸には 70 軒の農家があったこと。自給自足で味噌、醤油、油まで自家製だったことや干ばつの時の雨ごいの話などは貴重な話であった。内野さんの蔵には、今も古い農具がしまわれている。田起こしの道具、しゃいこなどで、内野さんは使い方を実演してくれた。

矢崎の地名は、伝説によってつけられたという。莊田城（現在の江田駅近くにあった）の城主は矢の名手で、城から矢を放って矢の先が落ちたところを「矢崎」、羽根が落ちたところを「矢羽根」というようになつたというのだ。

その矢羽根には矢羽根不動尊があり、毎年 1 月、5 月、9 月の 28 日に不動講を開いている。その日、地元の人たちが集まって掃除をして清め、お不動様にお供え物をし、輪になって太鼓をたたき念仏を唱える。矢羽根自治会長の大矢勇さんをはじめ集まった人々は、口々にこの集まりが心の支えになっていると話す。

莊田東第一小学校では、土曜日の休みを利用してお楽しみ会の中で、藁草履づくりや炭焼きなどがあり、地元のお年寄りと昔話をまじえながらの楽しいひとときを過ごしている。子供たちは「藁の匂いがよかった」とか「昔の人は大変だったんだなあ」とか、率直な感想。PTA 会長の井上利明さんは、子供たちに郷土の伝統を伝えると同時に地域との交流を兼ねたこうした催しを今後も続けていきたいと話す。

炭を作っている人は今ではもういないが、屋号が炭屋という家がある。森実さんで、当時四基の窯があったという。森さんは炭には暖かな温もりがあると当時を振り返りながら話す。

都筑区と青葉区の境にある剣神社。神社名の由来に炭にまつわる伝説があった。

昔、炭を商いしている商人が、鎌倉の刀鍛冶に炭を届けていた。いい炭を持ってくれたお礼にと、鍛冶師は一刀の刀を商人に贈った。その刀を持っての帰り道、疲れをいやそうと泉谷戸で休み、水を飲むと眠くなってしまった。すると木の上から大きな蛇が降りてきて商人を一呑みにしようとねらった。蛇が飛びかかるとしたその時、刀がひとりでに飛び出し蛇を退治した。商人は驚いて刀に感謝し、刀明神にしたという。

莊田東第一小学校のお楽しみ会では、炭焼きが行われていた。指導をされた大矢三郎さん、元莊田東小学校 PTA 会長の永田英司さんは、昔の暮らしを子供たちが体験できるこのような機会を、できる限り続けてもらえればと話している。

■動画で紹介された場所の現在の様子（左側が動画作成時、右側が現在の様子です）

矢羽根不動堂



急な階段を上がった高台にひっそりと不動堂が建っています。

荏田宿



荏田宿があったことを忍ばせる庚申塔が建っています。

剣神社



都筑区と青葉区の区界である鎌倉道沿いに位置しています。

炭焼き



都筑中央公園には炭焼き小屋があります。NPO 法人都筑里山俱楽部を中心に毎月第 3 土曜日に炭焼きが行われています。

不動講について

矢羽根不動堂では、現在でも 1 月、5 月、9 月の 28 日に不動講を行っています。現在の講中は 10 名で、お堂の管理などは講中の持ち回りで行っているそうです。

本尊の不動明王立像（矢羽根不動尊）は、台座銘から天和 3 年（1683）に鎌倉の仏師により造立された尊像として知られています。

（写真撮影日：2012 年 1 月 28 日）



■周辺地図



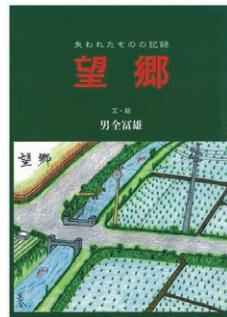
9. 望郷 －失われたものの記録

撮影期間	見どころ	『港北ニュータウン ふるさと伝承記録集』より
平成 11 年 2 月～平成 11 年 3 月		
撮影場所		
都筑区北山田 1 丁目	<p>現在、センター北駅前に建設中の共同ビル。その地権者の一人である男全富雄さんは、北山田地区の開発事業の指導者としてニュータウン建設を推進してきた。すっかり新しい街になり、古い暮らしや町並みが消えてしまった今、昔の暮らしを記録に残すには絵を描くしかないと、約 300 枚の絵を描いている。絵には、昔の村の様子、農業、主婦の暮らし、子供たちの生活、戦争、そして開発と、めまぐるしい激動の時代が忠実に描かれている。</p> <p>一枚一枚の絵は、横浜市北部の歴史の証言であり、貴重な資料といえる。</p>	
ストーリー		
<p>絵を描いていた男全富雄さん。その動機を山田富士公園で新しい街を眺めながら語る。</p> <p>開発当時、町内会長として地元の人々をまとめ、全員が賛成して開発に踏み切ったこと。先の太平洋戦争では命を落とした仲間たちがいたこと、それらを思うと、ふるさとの風景を消えて無くなるままにしておきたくない、何かの形で記録を残したい、それには、カメラなど無かったので記憶をたどって絵を描くしかなかった、と。</p> <p>その絵に描かれた、かつての村の様子、農業、主婦の暮らし、子供たちの生活、戦争、開発と、時代の流れとともに変貌してきたこの土地と人々の姿を、順を追って次々に画面に映しながら、男さんの語りやナレーションによって場面の説明が入る。</p> <p>場所は北山田 1 丁目、日吉・元石川線の北山田交差点の一角、その辺りが男全さんの屋敷のある、この物語の舞台である。</p> <p>はじめに村の様子が出てくる。川に沿った低地は水田で、山の斜面には畑が作られ、農家が点々と屋敷を構えていた。農家の家屋は 2 階建てで、2 階には蚕が飼われていた。</p> <p>戦前の山田富士。回りは水田と森に囲まれている。毎年 4 月 8 日には花祭りが行われ、甘酒を振る舞い賑やかだった。</p> <p>次は農業の営みである。春一番の田起こしから代かき、田植え、草取り。日照りの時の雨ごい、楽しいお茶の時間、戦後始まった農薬の散布。そして収穫。脱穀の移り変わりひとつを見ても、自動化された現代に比べて、かつては非常に大変だったことがつくづくわかる。そして縄ないと俵づくり。米一俵が 65 キロあり、それをかつげないと一人前として認められなかつた話には驚いてしまう。野菜づくりでは、さつまいもの保存、肥料かつぎ、何とも気持ちのよさそうな青空の下での昼寝の絵、竹の子掘りや茶摘み、桃の袋かけ、野菜の出荷、酪農、冬の麦踏みなど。</p> <p>次は運搬の移りわりである。中でも面白いのは、リヤカー引きを手伝う犬や木炭バスの話。場面は変わり、主婦の暮らしでは、家事、育児と、大変な農家の主婦の様子が描かれる。昭和 24 年頃の羽根車を回した樽の洗濯機にはびっくり。</p> <p>暮らしの場面として冬の団らんや和傘づくり、屋根葺き、戸主消防組や山田館の話の後に子供たちの生活が出てくる。赤ん坊をおんぶして登校する子供、朝の掃除に風呂焚きなど、子供も家の手伝いをさせられた。その一方、ドジョウ捕りや雀捕り、ホタル狩りなど、自然の中での遊び、手作り車やコマ回しの遊び、大人の自転車を横乗りして得意な様子と、いきいきとした暮らしが描かれている。</p> <p>そして戦争。戦地に赴く夫、無言の帰国。物資が不足し、鉄の供出、竹材の利用、松ヤニで造った油まで使われたことには驚いてしまう。そして北山田にも空襲があったこと。終戦によって再び平和な暮らしに戻ってきたが、昭和 40 年ころから大規模な土地開発が始まった。日本住宅公団の職員と村の人々の交渉の様子が描かれる。山を削り、谷を埋め、全体を平らにして都市基盤が作られた様子、屋敷を壊し、お墓を掘り起しお寺の墓地に移したことでも貴重な記録だ。</p> <p>ここには何代にもわたって続けられてきた北山田の暮らし、男全さんの記憶にある大正末から昭和末までの暮らしの移りわりが描かれている。</p> <p>最後に、再び男全さんに、これから街づくりへの思いを語っていただいた。「発掘調査で縄文・弥生時代の遺跡が出たことでもわかるように、昔からここに住んできた人たちは、初めは誰もが新住民だった。新しい街ができた今、新しく移り住んだ人たちと一緒にになって、新しいふるさとを共につくっていきたい、それが自分たちの務めだと思う」と。</p>		

■動画で紹介された内容について

失われたものの記録 望郷

動画で紹介されているイラストとともに、男全さんの当時の記憶が記されています。港北ニュータウン開発前の大正末期から開発が始まる昭和の半ばまでの北山田の生活や風景といった時代の移り変わりがよく分かる1冊です。



『失われたものの記録 望郷』
著者：男全富雄
発行：田園都市出版
発行日：1999年8月15日

望郷（記念協会編）

動画で紹介されているもののに男全さんが描かれたイラストをすべて掲載し、生活状況で分類してご本人からのご説明をいただき一冊の本として港北ニュータウン記念協会で編集しました。



10. 参考

茅ヶ崎城址について

■茅ヶ崎城址について

茅ヶ崎城址は、「空堀」「郭」「土壘」などが良好な状態で残る、貴重な中世城郭遺跡です。早渕川を北に望む自然の丘を利用して築城されています。

茅ヶ崎城は14世紀末～15世紀前半に築城されたと推定され、15世紀後半に最も大きな構えとなります。16世紀中ごろには二重土壘とその間に空堀が設けられました（この築城方法は、後北条氏独特のものとされる）。築城には、それぞれの時期に相模・南武蔵を支配した上杉氏（室町時代）や後北条氏（戦国時代）が関与していたと推定されます。

16世紀末までには、城としての役割は終わります。江戸時代には、徳川氏の領地となり、村の入会地（共有地）などとして利用され、「城山（じょうやま）」という地名とともに、今日まで保存されてきました。茅ヶ崎城址は、貴重な歴史資産なのです。

茅ヶ崎城は、早渕川中流右岸の三角山（現：センター南駅付近の旧地形）から東に連なる丘陵の先端部に築かれた丘城です。標高は28～35mあり、最高所は中郭南西隅の土壘上で、およそ40mあります。

当地域は、武藏国南部にあたり、関東の政治の中心地である鎌倉に隣接しています。茅ヶ崎城の近くには、関東各地と鎌倉を結ぶ鎌倉道のうち「中の道」が通っていたと考えられており、東側には後の中原街道、西側には矢倉沢街道（大山道）が通じています。また、早渕川沿いの道は神奈川湊（神奈川区）と武藏国府（府中市）を結ぶルートのひとつでした。茅ヶ崎城は、このような交通の要衝の地に自然の地形を巧みに利用して築かれていたのです。

（公園の説明板より、写真撮影日：2012年1月28日）



■茅ヶ崎城址全体図（出典：平成12（2000）年調査報告書「茅ヶ崎城址III」）



参考となる本の紹介

■都筑の伝承文化を知るための本

下記の資料は、港北ニュータウン記念協会が公開している「港北ニュータウンまちづくり資料」で閲覧できます。

横浜市・港北ニュータウン郷土誌 都筑の民俗

11年間にわたって調査された民俗記録をもとにまとめられた郷土誌です。港北ニュータウン開発前の都筑の人々の暮らしや民俗の詳細が分かります。動画に収録されている伝承芸能や生活について、詳しく解説されています。

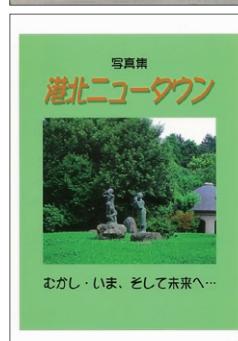


『横浜市・港北ニュータウン郷土誌
都筑の民俗』
編集：港北ニュータウン
郷土誌編纂委員会
発行：同上
発行日：1989年5月15日

写真集 港北ニュータウン むかし・いま、そして未来へ…

港北ニュータウンの開発前からまちづくりの過程を写真とともに紹介しています。

動画に収録されている伝承芸能や寺社などの写真を見ることができ、当時の様子をることができます。



『写真集 港北ニュータウン
むかし・いま、そして未来へ…』
発行：協会設立20周年記念写真集
刊行委員会
編集・制作：田園都市出版
発行日：2002年3月31日

■散策に便利なマップ

お寺のグリーンマップ

区内の寺院の紹介と、マップが掲載されています。



『お寺のグリーンマップ』
編集・発行：都筑区仏教会
発行日：2002年12月15日

都筑区北部・南部 水と緑の散策マップ

水と緑の環境資源や見どころなどの解説とともに、散策コースの紹介が掲載されています。



『都筑区北部 水と緑の散策マップ』
編集：都筑区北部水と緑の散策マップ
作成検討会
発行：都筑区
発行日：2008年11月
『都筑区南部 水と緑の散策マップ』
編集：つづき水と緑の魅力アップ
推進委員会
発行：都筑区
発行日：2004年11月

都筑の美しい緑道と公園を巡る 健康づくりコースマップ

緑道や公園を中心とした散策コースを設定し、コース沿いの見どころ情報を掲載しています。



『都筑の美しい緑道と公園を巡る
健康づくりコースマップ』
発行：都筑区土木事務所
発行日：2009年11月

都筑区マップ

